

上手な「転び方」

学生時代、スキーを習っていたときの事です。

若手のスキーコーチの指導を受けながら、
急な斜面を滑る練習をしていました。

うまく滑れずに転んでばかりいた私に、
その若手コーチは、実に根気よく、
懇切丁寧にアドバイスをくれます。

しかし、何度トライしても、
なかなかうまく滑れません。

そのため、
自分にはスキーのセンスが無いのかと
自信を失いそうになり、
さすがの若手コーチも、
すこし諦め気味になってきたとき、
それを近くで見っていた年配のコーチが
やってきて言いました。

大丈夫だ。
君は「転び方」が上手い。
きっと上達するよ。

この言葉に励まされて練習を続け、
急な斜面もうまく滑れるようになりました。

そのときのことを振り返り、いま、思います。

自分が励まされたのは、
「転び方が上手い」と褒められたからではない。

褒めるところのない状態において、
「転び方」を褒めてまで、
上達を信じてくれる人がいた。

そのことに励まされたのです。

その人の可能性を信じること。

それは、我々が大切な人に捧げ得る
「最高の贈り物」なのかもしれません。